

【活動報告書—1(先進地視察)】

1 活動名

- (1) 隠岐島前教育魅力化プロジェクト

2 調査の目的

- (1) 本市における課題

ア 本市は、2030 基本構想、第 11 次基本計画にこども若者教育の分野で、「子供たちが、主体的・協働的に探究することを通して、豊かな心と道徳心、確かな学力と体力が育まれ、個性が発揮できる学校教育を目指すとしている。

イ 施策の方向性として、コミュニケーション力を高めるとともに、子供たちがともに学び合える環境を整え、多様性の受容力や各々が、自分らしく、主体的に生きる力を育み、社会的自立を目指した教育を進めるとしている。また、個性を大切にした多様な学びの充実として、主体的、対話的で深い学びの実現、一人ひとりに応じた学習の充実を図るとしている。

ウ 本市の個性と多様性を尊重する学校教育に参考となる自治体や、小・中・高校で先進的に取り組んでいる現場の調査研究が必要である。

- (2) 調査の必要性

上記のとおり

- (3) 調査項目

ア 魅力的で持続可能な学校と地域づくりを進める自治体と学校の連携体制の在り方

イ 地域と共に学校をつくる小中、高校教育の魅力化と新たな取り組み

3 調査地選定理由

- (1) 島根県隠岐郡海士町 隠岐島前高校

人口減少や少子高齢化の影響で、過疎化が進む隠岐島前の 3 町村が、生徒児童が「行きたい」、保護者が「行かせたい」、教職員が「赴任したい」、地域住民が「活かしたい」という魅力ある学校づくり、教育現場を実現している、島根県隠岐郡海士町と隠岐島前高校の学校と地域の学びの場づくりを進めている。

4 調査結果

- (1) 実施日 令和 7 年 10 月 8 日、9 日、10 日

- (2) 出席者 7 名 牛丸仁志、村上幸雄、中島昌子、太田正徳、こば陽子、和久井悟、西澤郁弥

- (3) 海士町 隠岐島前高校、隠岐國学習センター、(財)島前ふるさと魅力化財団

- (4) 成果・所感 別紙2のとおり

5 政務活動費

- (1) 使途項目 調査旅費

- (2) 支出額 852,240円

(日当 9,000 円+宿泊費 29,600 円)×7人=270,200 円、旅費・交通費
389,540 円、研修負担金 25,000 円×7人=192,500 円

成果・所感

「隠岐島前教育魅力化プロジェクト」

1 プロジェクトの目的と背景

隠岐島前教育魅力化プロジェクトは、「島前地域で、島の暮らしにある幸せや豊かさが長く続くことに、教育分野から貢献すること」を最大の目的としており、海士町にある「島根県立隠岐島前高校」は、少子化や人口流出の影響で生徒数が減少し、廃校の危機に直面していたが、この危機を乗り越えるため、生徒・保護者・地域・教職員にとって魅力ある学校づくりを地域協働でスタートさせた。

2 プロジェクトを支える主な取り組み

- (1) 島留学(地域みらい留学)の推進：全国各地から意欲ある生徒を募集・受け入れる「島留学」を実施、島内外の生徒が混ざり合う「多様性」が学校の強みとなっており、一時 90 名を下回った生徒数も、現在では全校生徒 150 名規模を維持している。
- (2) 2022 年春より、普通科に加えて「地域共創科」が新設され、週 1 日、学校外で地域のリアルな現場をフィールドに探究活動に没頭する「地域共創 DAY」を設けており、地域課題の解決を通じた実践的な学びを提供している。
- (3) 離島の学習環境の不利を克服するため、高校と連携した公立塾「隠岐国学習センター」が設置されており、教科学習の支援に加え、地域社会を舞台に対話的・探究的に学ぶ「夢ゼミ」などを通じて、生徒の自立学習を支援。
- (4) 高校から始まったこのプロジェクトは地域の小中学校にも広がり、小中学校魅力化コーディネーターの配置などを通じて、「地域と共に学校をつくる」一貫した教育環境づくりへと発展している。

3 主な成果と評価

これらの取り組みにより、学級数増(生徒数の回復)を果たしただけでなく、生徒の資質・能力の向上という明確な成果も確認されている。アンケート調査によると、このプロジェクトの実践校で学ぶ生徒は、全国の高校生と比較して「主体性」「協働性」「探究性」や、「将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたい」といった「社会性」の意識が大きく上回っていることが実証されており、また、卒業生が島に戻り、地域に貢献する動きも生まれている。

4 考察、所感

今回の視察を通じ、公式な資料から読み取れる「革新的な教育プログラムの成功」という表層的な事実以上に、現場の生徒たちの姿や、その裏側にある「行政の覚悟」と「地域住民・関係者の努力」に大きな衝撃と感銘を受けました。本市の教育政策や地方創生を考える上で、以下の点が極めて重要な示唆となると考えます。

(1) 「自分の言葉で語る」高校生の姿と、それを支える「言語化する能力」

今回の視察で最も心に残ったのは、実際に交流した島前高校の生徒たちが、とにかく「しっかりしている」ことでした。現代の高校生は大人に合わせて上手に振る舞うことに長けている面がありますが、島前高校の生徒たちはそれとは異なり、「自分が何を好きで、将来ど

うていきたいのか」を自分自身の言葉で堂々と語ることができます。

先生方も「言語化ができる子たちが集まっている」と語っていましたが、これは決して単なる国語の授業の成果ではなく、「誰かに伝えたい」「地域をこう変えたい」という強い目的意識があり、探究学習やプロジェクト活動を通じてそれを実践しているからこそ培われた力です。

本市でも高校生との交流事業を行っていますが、島前高校のように「自ら考え、行動し、自分の言葉で語る」意志ある若者をどう育むかは、本市の教育においても大いに参考にすべき点だと思いました。

(2) 教育投資を「地域の存亡をかけた投資」と位置づける行政の覚悟

本プロジェクトの最大の転機は、当時、町の財政課長が「もし高校がなくなれば人口が激減し、島は財政破綻する」というシミュレーションを弾き出したこと、ということでした。

県立高校であるにも関わらず、町が多額の財政出動(コーディネーターの人件費や公立塾の運営費など)を行うことに対し、当初は議会からも厳しい声があったとのことでした。

しかし、各種の交付金を活用して自主財源の持ち出しを極力抑えるスキームを構築し、「教育への投資こそが地域を救う」という行政の強い覚悟が、成功の土台となっています。

(3) 門前払いから始まった泥臭い関係構築と「半日村」の精神

学校に外部人材(コーディネーター)が入る画期的な仕組みも、最初から歓迎されたわけではないようで、「何をしに来たのか」と門前払いされ、最初は図書室の隅に席を置かせてもらうような状態からスタートしたそうです。

関係者が大切にしている絵本『半日村』(高い山を少しずつ削り、日陰の村に太陽を当てる物語)のエピソードは非常に印象的でした。

教育の成果が出るまでには最低でも 6～9 年はかかると腹を括り、「3 年でダメなら 6 年、6 年でダメなら 9 年と、成功するまでやり続ける」という方針を貫いています。

この地道な「やり抜く覚悟」こそが最も必要とされる姿勢であると痛感しました。

(4) 「大人の島留学」による予想外の波及効果と空き家対策

高校の魅力化は、想定を超えた波及効果を生み出しています。

卒業生が島に戻りやすい環境を作るために始めた若者版「大人の島留学」制度により、年間 200 名近くの若者が島に滞在するようになったとのこと。

さらに、彼らが古民家の片付けを手伝う代わりに、そこをシェアハウスとして貸し出してもらった仕組みを作り、課題であった空き家問題(約 40 軒)も解消しています。

結果として、戦後初めて国勢調査の人口がプラスに転じる見込みとなるなど、教育の魅力化が若者の還流と定住促進の最強のエンジンとして機能しています。

(5) まとめ

ア 隠岐島前の成功は、決して奇跡や魔法ではなく、「危機感の共有」「泥臭い実践」「諦めない継続」の賜物です。

そして何より、そうした大人たちの姿勢が、生徒たちの「自分の言葉で語り、行動する力」を確実に育んでいます。

本市においても、単なる「学校教育の支援」という枠組みを超え、教育を起点とした地域づくりという広い視野を持ち、行政・学校・地域が一体となって粘り強く伴走していく仕組みづくりを議論していく必要があると考えます。

イ 「教育」と「学び」幼児から社会人まで、ライフステージに応じた多様な学びの機会と教育の魅力をはじめ、さまざまなプロジェクトを推進しており、子どもから大人まで幅広い形で学びの場がありました。

隠岐島前高校では、「島留学」として、日本全国から生徒を募集している。これまでに、北は北海道から、南は鹿児島まで 250 名の受け入れを行っています。

島留学生は 3 年間寮生活をしながら高校に通い、地元の島前 3 町村の生と共に互いに刺激を受け高め合いながらこう追う生活を送っています。

また、地域に関わるきっかけとして、「島親さん」が島留学生一人ひとりに付き、休日の畑のお手伝いをしたり、一緒に食事をしたり、島ならではの貴重な体験をしています。

「夢ゼミ」は、隠岐島前地域を舞台に対話的、実践的、探究的に学び続ける場です。多様な人と関わりながら地域社会の変化を見据え、小さな変化を作りながら個人と地域の双方の自立を目指しています。

「自分で決める、そして人生は続く」をキャッチフレーズに、年代別にそれぞれ特徴のある学びの場を設けています。

本市で取り組んでいる、ユースセンターは、自分たちで決めるそして人生を切り開いていくそのものの施設であり、海士町、隠岐島前高校及び(財)島前ふるさと魅力化財団の取り組みは、全国の中でも先進的な取組であり、本市の今後のことも若者、教育の施策に大いに参考になる取組みであると感じました。